

[講演要旨]

1894年庄内地震の調査日誌・紀行文から読取る被害状況

秋田大学地域創生センター 水田敏彦

北海道大学／東北大学 リーディング大学院グローバル安全学 鏡味洋史

1. はじめに

1894年庄内地震は庄内平野全域および秋田県を含む周辺地域に被害が発生した。筆者らはこの地震をとりあげ、当時の被害調査報告や郷土史料等を収集・整理し¹⁾、これまで山形県内の詳細被害分布^{2),3)}と従来議論されることの少なかった秋田県側の被害の詳細⁴⁾を明らかにしている。文献調査を進めるなかで酒田市立図書館で関野貞著の「両羽庄内震災調査日誌」、鶴岡市郷土資料館で「庄内大地震実見誌」を見出した。このような調査日誌・紀行文からは被害の様子や当時の交通状況等、他の報告書には見られない内容が多く含まれている。この他、新聞記者の動向⁵⁾や県議会の調査団についての報告⁶⁾もありこれらについてまとめてみた。

2. 庄内地震の調査日誌・紀行文

両羽庄内震災調査日誌：震災予防調査会の現地被害調査に同行した関野貞の調査日誌である。上野から東北線で黒沢尻（現北上）下車、それ以降は人力車を使い、横手―秋田―本庄―酒田と秋田県側の被災地を辿るルートを担当している。当時造家学科の学生であったが、被害調査のスケッチに記録班の一員として参加している。秋田県側を時間を掛け辿っており他の報告にない情報を多く含んでいる。当該地方は8月下旬の水害の被災地でもあり復旧の進まぬ中での被災であったことが読取れる⁷⁾。

庄内大地震実見誌：著者は宥霰士、郷土資料館の保存袋には富樫家史料、富樫翁岳か、とある。鶴岡町を震災6日目（10月28日）の未明に出発し酒田まで往復夕方戻る紀行文であり、被災集中域を含む鶴岡―酒田間の被害状況が詳細に書かれている。また、被害が描かれた挿絵も残されている⁸⁾。図1に表紙と挿絵の例を示す。



図1 庄内大地震実見誌

（左：表紙 右：挿絵の例 [黒森潰家の様]）

新聞記者の動向（北原⁵⁾）：東京大学地震研究所所蔵の「地震の切抜帳」より、現地に派遣された東京朝日新聞特派員の動向と被害報道の状況が記載されている。

県議会の調査団（山形県警察史）：山形県議会被害調査委員の報告で、原典ではないが全文が引用されている。11月22日山形出発、大石田11時30分発の船で最上川を下り11月23日午前1時30分松嶺着、仮眠の後、郡役所町役場の吏員と町内巡視。地震後1か月の調査であるが、被害集中域の被災状況を伝えている。

3. おわりに

1894年庄内地震における調査日誌・紀行文等を解読し、既往の調査報告にない災害の実態を抜き出し、被害状況の一端を追ってみた。今後は他の被害報告との比較検討を行いたい。

【参考文献】1)水田敏彦・鏡味洋史：1894.10.22 庄内地震の被害調査報告および関連史料の文献調査，日本建築学会技術報告集，17，35，pp.407-410，2011。2)水田敏彦・鏡味洋史：1894.10.22 庄内地震の飽海郡酒田町および松嶺町の町丁別被害に関する文献調査，日本建築学会技術報告集，19，42，pp.793-796，2013。3)水田敏彦・鏡味洋史：1894.10.22 庄内地震の大字別の被害分布に関する文献調査，日本建築学会技術報告集，19，43，pp.1235-1238，2013。（印刷予定）4)水田敏彦・鏡味洋史：1894.10.22 庄内地震の秋田県における被害に関する文献調査，日本建築学会技術報告集，18，38，pp.387-390，2012。5)北原糸子：メディア環境の近代化災害写真を中心に，神奈川大学評論ブックレット33，御茶の水書房，pp.99-103，2012。6)山形県警察本部：山形県警察史上巻，pp.939-941，1967。7)鏡味洋史・水田敏彦：1894年庄内地震の文献調査2)関野貞の「両羽庄内震災調査日誌」，日本建築学会大会学術講演梗概集，pp.1049-1050，2010。8)水田敏彦・鏡味洋史：1894年庄内地震の文献調査3)「庄内大地震実見誌」に記された鶴岡―酒田間の被害，日本建築学会大会学術講演梗概集，2013.8（発表予定）